

2050年二酸化炭素排出量実質ゼロへ 「ゼロカーボンシティいせはら」に向けて

昨今、二酸化炭素などの温室効果ガスが増え、地球温暖化は進む一方となっています。本市では、私たちの財産ともいえる豊かな自然との共生を、将来世代へ引き継いでいくため、市が一体となって地球温暖化対策を推進し、2050年における二酸化炭素排出量実質ゼロと気候変動に強いまちを目指す「ゼロカーボンシティいせはら」を昨年の10月22日に宣言しました。

エネルギーを節約・転換しよう

脱炭素社会には一人一人のライフスタイルの転換が重要です。

再生可能エネルギー電気の活用

再生可能エネルギー電気は二酸化炭素が発生しないことから地球温暖化対策に有効です。自宅や事業所に導入するには、自身で発電施設などを設置・管理するほか、次のような方法があります。



伊勢原小学校屋上の太陽光パネル

詳しくは問い合わせ先へご連絡ください。

初期費用0円で太陽光発電を「0円ソーラー」

伊勢原市 伊勢原市エネルギー課 ☎045-210-4115

太陽光発電・蓄電池の共同購入

伊勢原市 みんなのおうちに太陽光キャンペーン 事務局 ☎0120-216-100(平日の午前10時～午後6時)



市役所4階に設置したみどりのカーテン

みどりのカーテンで省エネルギー

窓辺や壁面にネットを張り、アサガオやゴーヤなどのつる性植物をはわせることで暑さを和らげ、エアコンの使用を抑える取り組みです。

日差しをさえぎり、冷房にかかる電力消費量の減少が期待できるため、二酸化炭素排出量の削減にもつながります。

公共施設で節電対策を実施しています

市の事業に係る温室効果ガスの削減などに関する計画「伊勢原市役所エコオフィスプラン」により、次の対策を実施しています。

- ◆冷房は室内温度を28℃に保つように管理◆昼休み時間は不要な屋内照明を消灯◆職員のクールビズを励行

環境対策課 ☎94-4737

伝えよう、いせはらの魅力

6月1日は「景観の日」

いせはらの豊かな里地里山や、歴史と文化を伝える町並みなどのさまざまな美しい景観を保全し次代に伝えるため、市民との協働による「景観まちづくり」を推進しています。取り組みの一つとして、条例に基づき進めてきた「地域景観資源登録」について、昨年度新たに1件を登録しました。

能満寺の紅葉 地域景観資源登録(令和3年度)

臨済宗建長寺派能満寺(三ノ宮1273)の山門脇には、100年ほど前に当時の住職が京都からもってきた大きなモミジが植わっています。

今ではその子孫も増え、11月末ごろから12月初めにかけて境内が真っ赤に染まり、参拝者や観光客の目を楽しませています。



朱色に輝く能満寺の境内

いせはらの景観資源を教えてください

皆さんが次代に伝えたい、残していきたいと思う景観を募集しています。詳しくは担当にお問い合わせいただくか、電子メール(☐t-seisaku@isehara-city.jp)でご連絡ください。

過去の登録について

今回の登録で、地域景観資源の登録は合計22件になりました。これまでの登録内容について知りたい場合は、市ホームページ「産業・まちづくり」→「景観」→「地域景観資源登録」、または右のQRコードからご覧ください。



市ホームページ

都市政策課 ☎94-4742

市民リポート



伊セハライチで農作物の直売を実施

善波地区の農道協にある土堤での草刈り作業

豆だけではない 「伊勢原まめの会」の活動

市民リポーター 三宅眞理子さん



田畑に広がる果樹園や、野菜のビニールハウス、牧場などがあり、豊かな風土を誇る伊勢原市。私は約50年前、ここに引越してきたのをきっかけに、市内の農業について知りたと思うようになり、色々なことを調べるようになった。風光明媚な伊勢原の原風景本格的な田植えのシーズンを迎える5月。植えられた苗は数日で根付き徐々に株が増え、日を追うごとに田んぼは緑色に色付いていきます。水

田に映る逆さ大山が大好きです。そして秋には日差しに輝く実った稲穂で辺り一面が黄金色に染まり、待ちに待った収穫の季節を迎えます。今回はこうした伊勢原の原風景ともいえる姿を守ろうと、18年以上にわたり活動をしている団体「伊勢原まめの会」の活動を紹介します。善波地区を中心に活動しているこの会は、荒廃農地を活用し、日本の食文化に欠かせない大豆や米、野菜などを栽培しています。

「なんとなく社会貢献してみたいと集まったのがきっかけでしたが、続けていくにつれて地産地消を進めたいと考えるようになりましたと代表の池田尚二さんは話します。地元農家との競合を避けるため、あえて津久井在来種の大豆や丹波の黒豆などを栽培。会の名前は活動の中心である大豆栽培と「マメに働く」ことから決めたとそうです。また、目的を実現するため毎年多くのジャガイモやタマネギを地元の小学校に届けているほか、市内の子ども食堂にお米を寄附したり、無農薬大豆で作った豆腐を地域の

人々に配布したりしています。最近では毎月第4日曜日に総合運動公園で行われている「イセハライチ」にも出店しています。昨年の11月28日には、通常の豆類や野菜の販売に加え、ミカンの詰め放題も実施するなど大盛況でした。ともに農業を守りましょう。昨今では農家の担い手不足や高齢化が進み、市内でも田んぼが減ってしまい、資材置き場や駐車場などになっていくようになります。こうした中、会の活動は緑あふれる伊勢原市を守っていくため、ますます大事になっていくと思います。女性会員や若い人も活躍していますので、興味をもたれた方は、いせはら市民活動センターの崎山さん(☎94-5300)までご連絡ください。

神奈川・東京エリアに47の直営施設を運営。年間6,800件のご葬儀をお手伝いするへいあんグループ【平安レイサービス株式会社】 広告

【火葬式・家族葬・ご法事対応】 生前相談・メール相談は24時間365日に対応

2 湘和会館 愛甲石田

小田急線「愛甲石田駅」北口より徒歩2分
(開館日) 毎日10~18時

伊勢原市石田596-1

1 湘和会館 伊勢原

小田急線「伊勢原駅」北口より徒歩8分
伊勢原市伊勢原3-5-6 駐車場完備
(開館日) 毎日10~17時

開館日以外の来館相談も可能です。まずはお問合せください。

もしもの時やご相談は365日24時間いつでも対応

フリーダイヤル **0120-24-8130** 公式サイト しょうわ 葬儀